

# masa sumidé plays the beatles



## 「僕とギターとビートルズ」 文：住出勝則

「ビートルズ」——音楽史上最高のグループとして名を残し、今でも世界中の人々を魅了し続ける唯一無二の存在。ヒット曲、名曲は数知れず、人種や言語を超えて影響を与えたアーティストも数知れず。僕自身、初めて彼らの音楽を耳にしたときの衝撃は今でも鮮烈に残っていますし、忘れることができません。また、「リアルタイム」で彼らの音楽を体感できたことを幸せに思っています。

本CDは、そんな偉大なグループの作品を「ギター1本」で表現しようと試みたものです。ひょっとして「えっ、それは無茶でしょう!」と思われる音楽ファンがおられるかも知れませんが、僕には「いい曲はギター1本であろうが、オーケストラであろうが、編成に関係ない」という確固たる信念がありました。

収録された16曲のアレンジの過程は、試行錯誤の連続で、楽しくも苦しくもありました。また、「あれも入れたい、これも入れたい」という願望から16曲に絞ることも大変でした。が、何よりも悩んだことは、アレンジに関して「どれくらい自分色に染めていいものか・・・」という点です。ただ単にオリジナルをそのままギターに移すことは初めからやりたくなかったのですが、かといって、アレンジしすぎるとオリジナルの味が消えてしまいますし、「冒涇」することにもなりかねません。よって、「中道」を行うことにしました。これは、妥協を意味するものではありません。あくまでも、僕とギターとの間での最良の選択だった、ということです。

今回、出版元のSlice of Life Recordsの松岡氏には、貴重な機会を与えていただきました。あらためて、この場をお借りして感謝の気持ちを表します。再び「ビートルズ」という偉大なグループの音楽にどっぷりと浸ることができましたし、その過程で多くのことを再学習させていただきました。これまで数多くのカバー曲をアレンジしてきましたが、ここまで根をつめて取り組んだことはありません。相手が「天下のビートルズ」ということだけあり、それなりの心的態度でのぞまなければ失礼にあたる、という気持ちゆえです。そんな心血を注いだ本CDが、ビートルズの各作品に新たな息吹を与えるとするならば（おこがましいですが）、僕のささやかな努力は報われたことになりすし、それに勝る喜びはありません。

最後に一言 —— ありがとう、ビートルズ！

# masa sumidé plays the beatles

Masaの新アルバム「MASA SUMIDÉ PLAYS THE BEATLES」は文句無く楽しめるアルバムだ。

あれだけ聴き込んだBeatlesの楽曲が新鮮に聞こえる上に、

Masaのギターならではの素晴らしいヴォイシングとハーモニー、トリッキーなフィル、

そしてご機嫌なグルーブ感！ Masaの個性と感性が素直に出ていると思います！

彼は、もともと歌手ですよ！ そうだ、だから凄く歌心があるんだね。

僕は過去に、彼のグループ「シグナル」のアルバムで沢山演奏させて頂きましたが、

今や僕のギター・ライバルです。

参ったなあ、どうしてヴォイシングがこんなに違うのか？

厚みのある和音…。

おや、音が同時に5個も鳴ってるぞっ。小指も使ってるの？このヴォイシングは素敵だなあ。

そして、構成とアレンジがとっても良く出来ていますね。

少なくとも20回は聴いたけど、飽きないし毎回発見があります。

Masa、参ったよ。

これからこのアルバムは、僕の愛聴盤になること間違いなし！

Go For It !

安田裕美 / ギタリスト & Producer

# masa sumidé plays the beatles

住出勝則というアーティストが類い稀なフィンガースタイル・ソロ・ギタリストであること、ワールド・クラスの優れたミュージシャンであること、それは誰もが知っている事実だろう。

住出さんと共演した、世界を股にかけて活躍するソロ・ギター音楽シーンのトップ・アーティスト達、例えばトミー・エマニュエル、ロウレンス・ジュバー、ダグ・スミス等と、そのミュージシャンとしての確かな実力とセンスを互いに認め合い、ミュージシャン仲間としての親しい付き合いを続けている。それだけでなく、あのアンディ・マッキーも住出さんに対する尊敬の念を公言してはばからない。また、タック&パティのタック・アンドレスは、住出さんがソロ・ギタリストとして2000年に発表したセカンド・アルバム『COOL EXPOSURE』のアルバム・ジャケットに絶賛のコメントも寄せている。

その上、70年代にフォーク・グループ「シグナル」のメンバーとしてプロ・ミュージシャン活動を開始し、ファースト・シングル「20歳のめぐり逢い」が80万枚を越す大ヒットを獲得。80年代には谷村新司、堀内孝雄、武田鉄矢などのアーティストをライブ・ステージやアルバムのレコーディングでサポートしたのをはじめ、スタジオ・ミュージシャンとしても数多くのレコーディングに参加したというキャリアもあるのだ。

そして、発表し続けてきたソロ・ギター・アルバムも本作で15枚目となる、キャリア37年にして現役バリバリのベテラン・ミュージシャンである。それに加えて、2011年に長年の友人でもあるミュージシャン仲間、滝ともはると矢沢透(アリス)との3人で結成した新グループ「HUKUROH(ふくろう)」としての活動も始め、ギタリストとしてはもちろん、リード・ヴォーカリストとしての歩みも再開した。

まさにパワー全開。充実しまくりの「今の住出さん」がビートルズのカバー・アルバムを作ろうと思いついた。誠に嬉しい限りである。そう決断してからの住出さんの本作への意気込みにはすさまじいものがあった。収録作品の選定の後、各曲のアレンジを開始し、じっくりと時間をかけて完成形を生み出し、レコーディングを行う、その為の周到かつ入念な準備。それぞれの過程の中でミュージシャン住出勝則の真価を自ら問い、素晴らしい答えを出した。

1週間余のレコーディングを終え、マスタリングも完了した日の、住出さんの自信に満ちた晴れやかな笑顔が忘れられない。それが本作『Masa Sumidé Plays the Beatles』なのである。世界中のアコースティック・ギター・ファンとビートルズ・ファンの皆さんに是非お聴き頂きたいと思う。

それでは、収録作品を簡単にご紹介しよう。各曲の後半でビートルズのオリジナル曲についても触れている。曲目の下にはチューニングも記した。

\* \* \* \*

## 1 Come Together

[ DADEAD / 2 capo ]

「ビートルズによる初めてのスロー・ファンク・チューン」と紹介されること

もあるように、あのスローなテンポからは誰もが逃れられないイメージのあるこの曲を、住出さんは、いとも簡単にアップ・テンポにアレンジ。「(スローな)あのままの感じになるのがイヤで変えてみました」という思い切りの良さが、アツと驚くこの世界最速ヴァージョンの「Come Together」を生んだ。本作のオープニングに相応しく、「2曲目からは一体どうなるの?」というハラハラドキドキと期待で、あなたをノック・アウトしてしまう3分12秒。

「Come Together」は、1969年9月に発表されたアルバム『Abbey Road (アビー・ロード)』A面1曲目に収録。同年10月に英米で、11月に日本で両A面シングル盤として発売された。全英4位、全米1位を記録。片面は「Something」だった。マイケル・ジャクソン、アイク&ティナ・ターナー、エアロスミスをはじめ、多くのアーティストがカバー。2012年のロンドン・オリンピック開会式でアーケティック・モンキーズが演奏したことも記憶に新しい。

## 2 Eleanor Rigby

[ DADFAB ]

この曲は以前よりYouTubeに住出さんの演奏動画がアップされているが、本作のヴァージョンはそれとは異なり、スローで少しブルースっぽいアレンジである。一歩引いたクールな感じが堪らなく良い。

1966年8月にリリースされた英国での7作目のオリジナル・アルバム『REVOLVER(リヴォルヴァー)』に収録。同年8月に英米で(英国のみ両A面扱い)、9月に日本でシングル発売された。全英米とも1位を記録。片面は「Yellow Submarine」。「Yesterday」と同様にオリジナル・ヴァージョンはストリングスが印象的だが「Yesterday」は弦楽四重奏、この「Eleanor Rigby」は弦楽八重奏であった。

## 3 I Feel Fine

[ DADGBD ]

グルーヴの効いた16ビート。聴く者の身体が自然と揺れてくるこの感じ。有名なソロ・リフも心地よい。時折入る1オクターブ・ユニゾンのフレーズがシャレっていて、カッコ良い。

「I Feel Fine」は、1964年11月に発表された8枚目のオリジナル・シングル。同曲がアルバムに収録されたのは米国で発売された『Beatles'65』が初めて、その後『The Beatles / 1962-1966 (ザ・ビートルズ 1962年 - 1966年)』(通称:赤盤)などにも収められた。全英で6週連続1位、全米で3週連続1位を獲得。

## 4 Girl

[ DADGAD ]

バラードにアレンジされた「Girl」。オリジナルは3拍子のところ、サビ以外はワザと4拍子にし、サビのみで3連のリズムで演奏。キーは「Dm」から始まり、2番から「Gm」に転調されている。オリジナル曲で聴けるジョンのヴォーカルと同様の「哀愁」を感じてしまうのは、私だけだろうか。

1965年12月3日に発売されたアルバム『Rubber Soul(ラバー・ソウル)』からアルバムと同じ日にリリースされたシングル曲。もちろん、レノン=

# masa sumidé plays the beatles

マッカートニー名義の作品だが、実際はリード・ヴォーカルをとったジョン・レノンの作。オリジナル曲では通常は余り使わない高い位置、7フレットにカポを付けてローコードのAmやGフォームで演奏されている。蛇足ながら、ジョージ・ハリスン作の「Here Comes the Sun」も7カポを使用したことで有名な曲である。

## 5 The Night Before

[ DADG<sup>b</sup>AD ]

「テンポ、リズム、構成としては、ほぼオリジナルに近いですが、少しだけラテン系(ボサノバの早いテンポ?)の味付けがしてあります」とは住出さん自身の弁。途中のリード・ギター・ブレイクにおける切れ味するどい1オクターブ・ユニゾンもキマっている。

彼等が主演した2作目の劇場映画であり、1965年8月にリリースされた英国での5作目のオリジナル・アルバムである「HELP! [ヘルプ! 4人はアイドル]」のA面2曲目に収録。同年2月17日で録音され、たった2テイクで完成させたという。ジョンがレコーディングで鍵盤楽器を初めて使った曲としても有名(「I'm Down」のレコーディングでジョンがヴォックスのオルガンを弾いたのは、それより後で同年6月のこと)だ。曲間のギターソロはジョージではなく、ポールがEpiphone Casinoギターを弾いていた。

## 6 Got To Get You Into My Life

[ DADG<sup>b</sup>AD ]

ベース音を効かせたシャッフルのリズムでグイグイ引っ張っていき、サビのタイトルの歌詞“Got to get you into my life”のところで一気に爆発する。そんなスリリングなオリジナル曲の展開そのままに、繊細さと大胆さを併せ持ったアレンジが圧巻。住出さん独自のエンディングも加わった。

1966年8月にリリースされた英国での7作目のオリジナル・アルバム「REVOLVER」のB面6曲目に収録。このアルバムからメンバー(およびプロデューサーのジョージ・マーティン)以外の外部ミュージシャンを使い始めたことで知られ、この曲には5管のホーン・セクション(トランペット×3、テナー・サクソフォン×2)が参加している。

## 7 Something

[ DADG<sup>b</sup>BD ]

アレンジに入る段階で「この曲に最適なキーとチューニングを選ぶこと」が最も重要なポイントだったと述懐する住出さん。ぴったりハマったDADG<sup>b</sup>BDチューニングで、転調するサビの部分も印象的だ。ニュアンスに富んだ住出さんのアレンジがこの味わい深いスロー・チューンに施され、新たな魅力を持ったソロ・ギター・インスト作品として生まれ変わった。

1969年9月に発表されたアルバム「Abbey Road」A面2曲目(つまり「Come Together」の次)に収録されたジョージ・ハリスン作による名曲。前述の通り、同年10月に「Come Together」との両A面扱いでシングル・カットされたビートルズにとって21枚目のシングル。この曲のレコーディングにジョンは参加していない。全英で4位、全米で1位を獲得。

## 8 Michelle

[ DADFCE ]

熱心な住出勝則ファンならご存じの通り、この曲「Michelle」は2005年にリリースされたアルバム「House Of Hits」にも収録されているが、同アルバムのヴァージョンとは全く異なるアレンジとなっている。少しスイング気味のプレイが実にクールだ。

1965年12月に発表されたアルバム「Rubber Soul」のA面ラストの7曲目に収録されたポール作によるバラード曲。ビートルズの公式発表曲の中で、歌詞にフランス語が使用されている唯一の曲としても知られる。

## 9 And I Love Her

[ DADGBD ]

オリジナルとはほぼ同じミディアム・テンポでのプレイ。「Yesterday」以前にポールが作ったこのラヴ・ソングの傑作を8ビートの心地良いアレンジで、甘すぎず上品な味の極上ギター・インストに料理した住出さんの「名コックぶり」に脱帽。

1964年7月にリリースされた「A Hard Day's Night [ハード・デイズ・ナイト。旧邦題は「ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!」]」のA面5曲目に収録。英国ではシングル・カットされず、米国と日本でシングル発売された。全米12位獲得。間奏のソロはジョージがホセ・ラミレスのガット・ギターを使用して弾いた。

## 10 Can't Buy Me Love

[ DADGBD ]

3曲目の「I Feel Fine」と同じく、いわゆるギャロッピング・スタイルでのプレイだが、オーソドックスなカントリー・ギターっぽさに終始することなく、見事に「住出流」となっているのはサスガだ。オリジナルより少しスローなテンポで「フィンガースタイル・ギターならではの」アレンジが効いている。

1964年3月に英国でリリースされた6枚目のオリジナル・シングル。前述の「A Hard Day's Night」のA面7曲目に収録。イギリスでは100万枚、アメリカでは210万枚も予約され、史上初めて予約だけで100万枚以上売れたシングルとしてギネス世界記録に認定されているという。1964年4月4日付のビルボード誌「HOT 100」で1位から5位までをビートルズの曲が独占した時も1位だった。

## 11 I Will

[ DADGBD / 2 capo ]

「何も足さない、何も引かない」といった趣きのすっきりしたアレンジ。ギター1本の弾き語りといえるオリジナル曲の爽やかなフォーク風味を上手く表現した軽やかな演奏が印象的である。

1968年11月にリリースされた通称「ホワイト・アルバム」と呼ばれている2枚組アルバム「The Beatles [ザ・ビートルズ]」に収録。ポールが後に妻となるリンダに捧げた最初の曲。同アルバムに収録の「Blackbird」と同様、ポールがマーティンのD-28を弾いている。この曲の録音にジョージは参加していない。

# masa sumidé plays the beatles

## 12 Sgt. Pepper's Lonely Hearts Club Band

[ DADG<sup>b</sup>CD / 2 capo ]

セブンスの音を効かせたチューニング「DADG<sup>b</sup>CD」による演奏。メロディ・パートの一部を隣り合う2本の弦によるユニゾンでプレイしていたり、オリジナルではフレンチ・ホルンで演奏されるフレーズをハーモニクスで入れるなど、カッコいいアレンジは住出さんの面目躍如である。

67年6月にリリースされた8作目のオリジナル・アルバム「Sgt. Pepper's Lonely Hearts Club Band [サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド]」のアルバム・タイトル曲。このアルバムが発売されてから3日後、ジミ・ヘンドリックスがイギリスで行ったライブ・コンサートのオープニング・ナンバーとしてこの曲を演奏し、観客席にいたポールを感動させた、というのは有名な話。

## 13 Don't Let Me Down

[ DADG<sup>b</sup>AD ]

いきなりサビ(コーラス)から入るこの曲。オリジナルでのジョン・レノンの力強いリード・ヴォーカルを想起する強力なギター・ストローク。開放弦を活かしたアレンジ。エンディングのヒッティングやタッピングも効果的だ。

1969年4月に「Get Back」のB面としてリリースされた19枚目のオリジナル・シングル。ピリー・プレストンがエレクトリック・ピアノ(フェンダー・ローズ)で参加。「Get Back」のレコーディングと同様、抜群のリックスをプレイしている。

## 14 Yesterday

[ STANDARD ]

去って行った恋人を想うラヴ・ソングであるこの曲。サビの“Why she had to go? (なぜ彼女は行ってしまったのだろうか)”のところは、歌詞が浮かび上がってくるほど一言一句丁寧に、切々と歌い上げるようにしっとりとした演奏。本作中、唯一のスタンダード・チューニング(EADGBE)で思い入れたっぷりにプレイされている。

アルバム「Help!」収録曲。名義はレノン=マッカートニーながら、ポール一人で作曲。弦楽四重奏の編曲を手がけたプロデューサーでもあるジョージ・マーティンとのコラボレーションで生まれた名曲である。アルバム「ヘルプ!」は1965年8月リリース。この「Yesterday」は、同アルバムからのシングル・カットとして同年4月に先行発売された「Ticket to Ride [涙の乗車券]」に続く第2弾シングルとして7月にリリースされた。1965年2月17日にたった5時間のセッションで完成したという。英国では当時シングル・カットされず(解散して6年後の1976年にシングル発売された)、米国と日本でシングル発売され、4週間にわたって全米1位を記録した。

## 15 Help!

[ DADGAC / 2 capo ]

3曲目「I Feel Fine」や10曲目「Can't Buy Me Love」と同じく、ギャロッピング・スタイルでリズムカルに軽々と演奏されている。しかし、この曲をプレイする住出さんのYouTube動画を見ると、目まぐるしくフレットボード

を上下し、様々に変化する左手のポジショニングに目を見張る。当然のことながら、多くの先達がスタンダード・チューニングで演奏してきたギャロッピング奏法と住出さんのそれとは、運指が全く異なるのである。カウンター・ヴォーカルの部分を低音パートで組み込んだアレンジ、オリジナルではファルセット・ヴォーカルで歌われる“Won't you please...”の歌詞のところのライドが気持ち良い。

アルバム「HELP!」のA面1曲目に収録されたアルバム・タイトル曲。「I'm Down」(B面)とのカップリングで同年7月23日にシングルで発売された。英米とも1位を獲得。

## 16 The Long and Winding Road

[ DADG<sup>b</sup>AD ]

スロー・バラードのアレンジにも抜群の冴えをみせる住出さん。その素晴らしいがこの曲でも味わえる。オーケストラも加わるオリジナル曲の音の拡がり、スケール感までもギター1本で表現できうることを何のギミックもなく証明してみせる。オリジナルのメロディを大切にしたいアレンジは、まさに本作のエンディングに相応しいものだ。

1970年5月にリリースされたビートルズのラスト・アルバム「Let It Be [レット・イット・ビー]」に収録。同年10月「For You Blue」(B面)とのカップリングとして、また日米で彼等のラスト・シングルとして発売。米国で1位を獲得。

(解説: プー横丁店主 POOH)

### 住出勝則『マサ・スミデ・プレイズ・ザ・ビートルズ』

発売日: 2013年1月16日

定価: 2,940円(税込)

レーベル: スライス・オブ・ライフ (Slice of Life Records)

本CDは『プー横丁』の通販、店頭でお買い求めいただけます。お問い合わせ、ご不明な点など、ご遠慮なくご連絡ください。

電話: 075-231-3835 / ファクス: 075-212-6064

Eメール: info@poohyokocho.com

営業時間: 11:00am ~ 7:00pm (日/祝日定休)

ホームページ: <http://shop.poohyokocho.com/>

住所: 京都市中京区亀屋町 370-1-501

This CD is available through POOH YOKOCHO.

Please feel free to contact us for placing an order or for more information.

E-mail: info@poohyokocho.com

Business Hours: 11:00am - 7:00pm

Closed on Sundays / national holidays

Web: <http://www.h2.dion.ne.jp/~slice/pooh/sumideenglish.htm>

Address: P.O. Box 61, Nakagyō, Kyoto 604-0941, Japan

# ローレンス・ジュバー/住出勝則 ツアー2013



LJ Plays The Beatles



LJ Plays The Beatles Vol.2



Masa Sumide Plays the Beatles

Celebrating The 40th Anniversary of Pooh Yokochi, Inc.

# LAURENCE JUBER MASA SUMIDE TOUR 2013

## A SOLO GUITAR TRIBUTE TO THE BEATLES

東京

4月9日(火)・10日(水)  
**BACK IN TOWN**

東京都新宿区住吉町3-2 第2山田ビルB1  
開場: 18:00 / 開演: 19:30  
ミュージックチャージ 6,300円  
※要1ドリンク・1フード・オーダー

■ 予約・問合せ

**BACK IN TOWN**

TEL: 03-3353-4655

メール: backintown@nifty.com

WEBページ:

<http://homepage3.nifty.com/backintown/>

大阪

4月12日(金)  
**amHALL**

大阪市北区曾根崎2-14-17 CIビル3階  
開場: 18:00 / 開演: 19:00  
前売: 5,800円 / 当日: 6,300円  
※要1ドリンク・オーダー

■ 予約・問合せ

**プー横丁**

TEL: 075-231-3835

メール: info@poohyokocho.com

WEBページ: <http://shop.poohyokocho.com>

**amHALL**

TEL: 06-6362-2001

メール: info@amhall.jp

WEBページ: [www.amhall.jp](http://www.amhall.jp)

京都

4月13日(土)  
**磔磔**

京都市下京区富小路仏光寺下がる  
開場: 17:00 / 開演: 18:00  
前売: 5,800円 / 当日: 6,300円  
※要1ドリンク・オーダー

■ 予約・問合せ

**プー横丁**

TEL: 075-231-3835

メール: info@poohyokocho.com

WEBページ: <http://shop.poohyokocho.com>

**磔磔**

TEL: 075-351-1321

メール: takutaku@geisya.or.jp

WEBページ: [www.geisya.or.jp/%7Etakutaku](http://www.geisya.or.jp/%7Etakutaku)

名古屋

4月14日(日)  
**GARY'S**

名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビルB2F  
開場: 17:00 / 開演: 18:00  
前売: 5,800円 / 当日: 6,300円  
※要1ドリンク・オーダー

■ 予約・問合せ

**GARY'S**

TEL: 052-263-4710

メール: info@garys.jp

WEBページ: [www.garys.jp](http://www.garys.jp)